

熊本県酪農専門 6 組合合併予備契約調印式開催



隈部会長

熊本県酪農専門 6 組合は 9 月 1 日、らくのうマザーズ 3 階大会議室で、合併予備契約調印式を開き、6 組合の代表者と立会人がこれまでの協議結果を確認し、予備契約書に調印しました。

熊本乳牛農業協同組合、玉名酪農業協同組合、鹿本酪農農業協同組合、大阿蘇酪農業協同組合、西阿蘇酪農業協同組合、火の国酪農業協同組合の 6 組合が来年 4 月 1 日に合併することを目指しています。

酪農組織整備をめぐっては、平成 6 年に C I 10 カ年計画で「一県一酪農協づくり」が掲げられ、組織整備の取り組みが正式に始まりました。

その後、平成 29 年にスタートした外部有識者による「組織再編整備委員会」の答申を受けて令和 2 年に策定された「熊本県酪農組織整備の基本方針」に基づき協議が行われてきました。

今回の合併では、今年 2 月の「熊本県酪農専門農協合併等組織整備推進協議会」の協議の中で、酪農専門農協 10 組合のうち、合併可能な組合として 6 組合による合併協議が始まりました。度重なる検討・協議や組合員への説明会などを経た結果、新組合「熊本県酪農業協同組合」が発足することになっています。



山田組合長

合併 6 組合を代表して挨拶した熊本県酪農専門農協合併等組織整備推進協議会の山田政晴会長（西阿蘇酪農協組合長）は、各組合長のリーダーシップの下で合併協議が進んだことに謝意を伝えました。その上で、厳しい酪農情勢にも触れ「このままではいけないということで、やっと 6 組合が一つになる決断をした。高齢化や後継者不足、廃業とさまざまな問題があり、酪農家の減少傾向が続いている」と話し、合併によって誕生する新組合の組織体制を充実させたいと意欲を示しました。



全体写真

COLUMN — コラム —

『変化への適応』

仲秋の候、いかがお過ごしでしょうか。本年度4月の人事異動で乳業本部長兼営業部長を拝命しました穴井です。日頃より乳業事業に多大なるご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。私はこのコラムへは初寄稿となりますので少し自己紹介をさせていただきます。入会させていただいたのが1993年で本年度33年目を迎えております。営業一筋で、熊本支店（2回）、福岡支店（2回）、北九州、関東、営業課、現職と県外での営業を17年経験させていただきました。この経験を活かし今後も乳業本部一丸となって頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、本年8月からの飲用向け乳価改定と副原料、包材、物流コスト、人件費等の高騰により乳業メーカー各社価格改定を行っております。特に副原料、包材、物流コストは現在も上がり続けており、先行きが不透明な状況となっております。本会におきましても取引先との交渉を重ね価格改定を行いました。成分無調整牛乳1000mlで店頭価格が10円から20円程度値上がりし、消費動向は懸念されますが、市場状況を把握し対応を図ってまいります。

このような状況のなか、コロナ禍以降の働き方、営業スタイル、更には物流の2024年問題による労働力不足等による運賃高騰など大きな変化の時を迎えております。

本会内勤職員の働き方について、コロナ前は私自身想像もしてなかったリモートによる在宅勤務の体制が構築され、不測の事態でも業務に大きな支障が無いよう対応しております。しかし在宅勤務が出来ない部署もあり、特に熊本・菊池両工場

においては感染症予防等に日頃より取り組んでおります。また営

業においてはコロナ禍では対面商談が出来ないなか、Webでの商談、会議も可能となりました。大手乳業メーカーが営業を減らし、商品力の強化を進めるなか、本会においても製品開発力の強化と、国内においては今後の少子高齢化が進んでいくなかでの商品構成の見直し、海外は畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業（マザーズコンソーシアム）の有効活用により輸出の強化に取り組めます。また生産から販売までという大手ではできない本会の最大の強みを活かし、取引先との信頼関係をより強固なものになるよう営業活動を行っていきます。

物流問題についてはこのままでは食品物流は今の物量を運べない可能性があると言われていたなか、九州の大手小売業は競合他社が物流に関しては連携し共同配送や物流課題の解決に向け動きだしています。本会においても本年4月より組織構成の変更により物流部を新設し、機能・権限の強化を図っております。昨年の冷蔵倉庫増設によるD1出庫（製造日の翌日出庫）への対応、受発注の効率化、物流会社との更なる連携強化を図り、物流体制の再構築に取り組めます。

変化への対応が求められている状況のなか、本会においても迅速かつ的確な判断で、より安全・安心な製品を安定供給できる体制の維持と、さまざまな変化に適応し、今後も売上拡大と収益の確保に努めます。



らくのうマザーズ
乳業本部長
穴井 成佳

消毒薬のいろは

生産本部指導部技術課 吉村 直人

皆さんは消毒薬をどのような場面で利用していますか？搾乳の際の乳頭清拭、牛舎に入る際の踏み込み槽、あるいは子牛の哺乳器具や畜舎の洗浄など、消毒は酪農家の日々の作業の一部となっています。消毒薬を選ぶ際には広く知られているものを選ぶことが多いと思いますが、目的や対象とするものに応じて適切なものを選ぶ必要があります。そのため、消毒薬ごとの特徴や違いをおさらいしてみたいと思います。

各消毒薬の話に移る前に、消毒薬全般の話として、効果を最大限高めるためには適切な環境下で使用する必要があります。消毒薬の効果に影響を与える要因として、①濃度、②時間、③温度、④有機物の有無、⑤pH、⑥他の消毒薬との併用が存在します。

①濃度

一般的に濃度が高いと効果が高くなりますが、生体や物に対する有害作用も強くなるため、適切な濃度で使用する事が求められます。

②時間

対象物を消毒薬と触れ合わせる十分な時間が必要となります。

③温度

一般に高温で効力が高まり、低温で低下します。

④有機物の有無

有機物（血液や糞尿、わらなど）が存在すると効果が薄まります。そのため、踏み込み消毒槽に入る前に長靴を水洗いする、畜舎消毒の前に高圧洗浄機等で汚れをなくすなどの対処法が考えられます。

⑤pH、⑥消毒薬との併用

消毒薬には適切なpHがあるため、酸性薬（ビルコン等）とアルカリ性薬（消石灰等）が混和すると効果が低下します。

以上のことを考慮に入れ、各消毒薬の「使用上の注意」を守ることによって最大限の効果が得られます。

次の表では、主要な消毒薬ごとの特徴についてまとめました。

	薬剤名	利 点	注意点	主な用途
逆性石けん	アストップ クリアキル パコマ 等	粘膜や皮膚への刺激性少ない 金属腐食性がほとんどない	有機物があると効力が下がる 低温下にて効力が著しく低下	畜舎、手指、 器具、乳房など
両性石けん	ネオラック パステン 等	粘膜や皮膚への刺激性少ない 金属腐食性がほとんどない	有機物があると効力が下がる	畜舎、手指、 器具、踏み込み槽
塩素系	アンテックビルコン クレンテ 等	ほとんどすべての病原体に作用	金属腐食性が強い 有機物があると効力が下がる 高温では蒸発しやすい	踏み込み槽
ヨウ素系	ポビドンヨード 等	ほとんどすべての病原体に作用	金属腐食性が強い 有機物があると効力が下がる 高温では蒸発しやすい	乳頭
アルデヒド	エクスカット グルタプラス 等	ほとんどすべての病原体に強い作用 有機物の影響を受けにくい	人体毒性がかなり強い ため眼鏡やマスク必須	畜舎、器具、車両
アルコール	イソプロパノール エタノール 等	即効性あり	蒸発が速い	手指、器具、室内
オルソ剤	タナベゾール トライキル 等	コクシジウムに作用を持つ 有機物の影響を受けにくい	紫外線に弱い 特徴的なにおい、粘膜刺激性が強い	踏み込み槽
石灰	消石灰	殺菌力強い、安価 石灰乳の塗布で病原体を覆い隠す	粘膜刺激性が強い 吸水性が強く定期的な交換が必要	畜舎、農場出入口、 堆肥

表 1. 主要な消毒薬ごとの特徴

また、次の表には表1の消毒薬がどの病原体に効果があるかをまとめました。

	細菌		抗酸菌	芽胞菌	真菌	ウイルス		コクシジウム
	グラム陽性	グラム陰性				エンベロープあり	エンベロープなし	
	ブドウ球菌 レンサ球菌 など	大腸菌 サルモネラ菌 など	ヨーネ病 結核菌 など	クロストリジウム 炭疽など	皮膚糸状菌 酵母様真菌 など	ランピースキン コロナ、BVD リンパ腫、RS など	口蹄疫、ロタ アデノ など	
逆性石けん	○	○	×	×	△	○	×	×
両性石けん	○	○	△	×	△	○	×	×
塩素系	○	○	○	△	○	○	○	×
ヨウ素系	○	○	○	△	○	○	○	×
アルデヒド	○	○	○	○	○	○	○	×
アルコール	○	○	○	×	△	○	×	×
オルソ剤	○	○	×	×	○	○	×	○
消石灰	○	○	○	△	○	○	△	△

表2. 主要な消毒薬ごとの病原体への効果

例えば子牛の下痢対策で消毒を行う際、対象とする病原体に応じた適切なものを選ばないと効果が見られません。具体例を挙げると、ロタウイルスとコクシジウムでは使用すべき消毒薬が異なってくることがわかります。病気が多発する際や治療の効果が弱い際には、治療だけでなく消毒からもアプローチしてみてもいいでしょうか。かかりつけの獣医師や専門機関に相談し、原因究明と適切な対処を目指しましょう。今回は消毒薬のみのお話でしたが、疾病予防に対しては長靴の履き替えや床敷のこまめな入れ替え、もしくはワクチン接種なども併用することでより効果が期待できます。

まだまだ暑い日が続きますが、例年感染症が流行する冬の前に今一度おさらいの意味で書かせていただきました。本文が皆さんの衛生意識の高まりと適切な消毒薬選びの助けとなりましたら幸いです。

令和6年度生乳品質共励会の結果報告

近年、消費者の牛乳・乳製品をはじめとする「食の安全・安心」への関心は一層高まっておりそれに応えるため、食品の安全確保に向けた取り組みが強く求められています。

このような状況の中、酪農業の健全な発展と酪農経営の安定を図り、新鮮で良質な生乳を乳業者へ供給するとともに、生乳の有利販売に繋げることを目的に、九州生乳販売農業協同組合連合会主催の生乳品質共励会が開催されました。令和6年度は九州全体で955戸（本県372戸）の酪農家が対象となり、1,000点以上の「優秀賞」を受賞したのは34戸・「優良賞」を受賞したのは154戸でした。うち本県からは優秀賞17戸・優良賞80戸と、多くの酪農家が優れた成績を収めています。さらに、本県より500トン以上の部（3部）においては、1,145点を獲得されました右田祐樹（JA菊池）さんが、昨年に引き続き最優秀賞を受賞されました。

本県酪農家の高い技術と日々の努力が改めて実を結んだ結果となりました。



受賞コメント

「令和6年度生乳品質共励会で最優秀賞をいただき、心より感謝申し上げます。安定した高品質な生乳を生産できたのは、牛たちの健康と環境を第一に考え、愛情をこめた成果であると感じています。今後も、技術の研鑽に励み、より一層良質な生乳をお届けできるよう努めてまいります。そして、地域の皆さまに支えられていることへの感謝を忘れずに、これからも頑張ります。」

【令和6年度 生乳品質共励会優秀賞受賞者一覧】

組 合 名	氏 名	点 数	規模別	表 彰
菊池地域農協	右田 祐樹	1,145	3	3部 最優秀賞
火の国酪農協	(有)生山牧場	1,148	2	優秀賞4
菊池地域農協	梁池 朋幸	1,145	2	優秀賞5
菊池地域農協	西本 敏雄	1,140	2	優秀賞9
ホワイ酪農協	村岡 泰司	1,131	1	優秀賞13
球磨酪農協	尾方 学	1,127	3	優秀賞14
球磨酪農協	中村 直樹	1,126	2	優秀賞15
球磨酪農協	立作 浩一	1,124	2	優秀賞16
菊池地域農協	山下 誠也	1,120	1	優秀賞17
菊池地域農協	古庄 和廣	1,112	2	優秀賞18
ホワイ酪農協	芳賀アグリカルチャー(有)	1,111	3	優秀賞19
球磨酪農協	中村 竜郎	1,111	3	優秀賞20
菊池地域農協	斉藤 和彦 (吉富)	1,111	2	優秀賞22
菊池地域農協	(有)ナガシオ	1,105	3	優秀賞23
上益城農協	(株)マツノファーム	1,097	3	優秀賞26
菊池地域農協	工藤 伸一	1,097	2	優秀賞27
火の国酪農協	吉村 信明	1,095	1	優秀賞28

1部：250トン未満、2部：250トン以上～500トン未満、3部：500トン以上

本気婚活 第7弾 ミルキーツアーin島原

主催：らくのうマザーズ

令和元年以来の婚活ツアー（らくのうマザーズ主催）を6年ぶりに開催致します。熊本県内の酪農家・後継者の花嫁候補を広く募集し、各種イベント等を通して将来の素晴らしいパートナー探しをお手伝いします。男性の参加対象者につきましては、熊本県内で酪農を営んでいる20歳～38歳位までの方とさせていただきます。

開催日は、令和8年1月24日（土）～25日（日）です。本会での交流会の後、フェリーにて島原へ赴き、観光名所の観覧、ホテルでのパーティーやゲームで親睦を深め、2日目は共同体験を交えながら交流し最後は告白タイムへ…と様々なイベントを計画しております。ツアー終了後もアフターフォローやアフターパーティー等を開催し、結婚につながるお付き合いに進めるようしっかりサポートを行います。県内はもちろん九州各県から真剣に結婚を希望している女性に参加されますので、この機会に我こそはと思われる方につきましては、関係各組合を通じお申し込みをお願いいたします。一般女性参加者の方につきましては、旅行代理店を経由してお申し込みをお願いいたします。

お問合せ先：生産本部 経営支援課まで



写真引用：「海に見える駅」

酷暑が乳牛の体をどう変えるか ～エネルギー不足に対する飼料給与アプローチ「油脂サプリの活用編」～

熊本県の酪農家の皆様お世話になります。全酪連熊本担当の黒川です。

本格的な夏の暑さが続く今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか？今年の夏も出歩くことすら躊躇してしまうような夏ですよ。年々酷暑期間も増加傾向にあり、暑熱対策についての重要度も上がってきております。今回は飼料面からできるアプローチを1つご紹介したいと思います。



～暑熱ストレス時、牛に何が起きている？～

乳牛は乳生産、生体維持をはじめ様々な面においてエネルギーを使う生き物です。そのエネルギーを使う過程で体内には様々な熱が発生します。採食に伴うルーメン発酵熱、成長や乳生産に伴う代謝熱…例を挙げればきりがありませんが、乳牛は暑熱下において体内で発生した熱を逃がすため以下の行動をとるといわれております。

- 呼吸数の増加
- 横臥時間の削減
- 採食量の低下、など

結果として、1日の乾物摂取量が2～4kg減少するケースも珍しくありません。

～経営面への打撃～

この「熱を逃がすための行動＝エネルギー不足」は、見えない形で牧場経営を圧迫します。たとえば、

- 乳量の減少（平均で2～5kg/日）
- 乳脂率の低下（0.2～0.5%）
- 繁殖成績の悪化（受胎率が10～20%低下）
- 代謝病の発生（ケトーシス、脂肪肝など）

特にピーク時は乳腺へのエネルギー供給が優先されやすく、繁殖機能や免疫が犠牲になりやすい傾向にあります。また、夏場は必要なエネルギーは増えますが、餌を食べれば食べるほど熱が発生するというジレンマに陥っているともいえます。

～脂肪酸サプリメントが有効な理由は？～

夏場にデンプンや糖を増やすとルーメン発酵熱が高まり、逆効果になる場合があります。そこで有効なのが「脂肪酸由来のエネルギー」です。

メリットとしては、

- 発酵熱が低い
- エネルギー量が多い（でんぶんの約2.25倍）
- 特定の脂肪酸は乳脂合成や繁殖ホルモンの分泌にも関与



中でもバイパス加工された油脂サプリは、ルーメンを通過して小腸で吸収されるため、効率的に代謝されます。言い換えると、暑熱期に発酵熱を抑えながらアシドーシスのリスクを上げることなくエネルギーを供給することが可能ということです。

脂肪酸の組成を意識して製品をチョイスすると乳脂率の安定や受胎率改善を狙えるほか、夏バテによる泌乳低下の抑制にもなるのです。

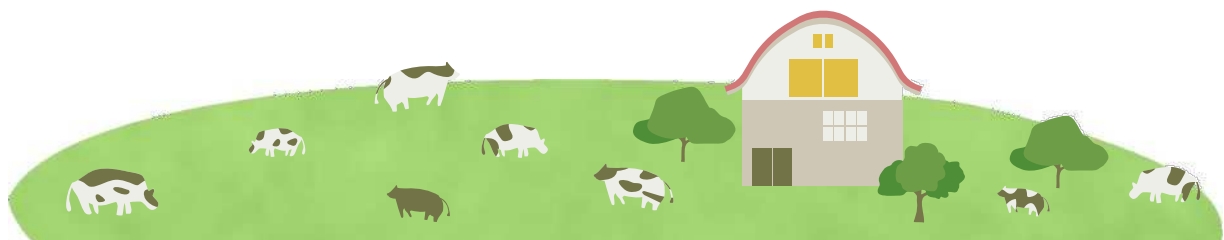
～脂肪酸の種類と効果～

油脂製品を使用する場合、その目的をしっかりと意識することが重要となります。

例：乳量を増やしたいのか、乳脂率を高めたいのか、エネルギー・バランスを改善したいのか、効果を期待している対象牛はどれか…など

表 1. 脂肪酸の種類と効果について

種類	効果
パルミチン酸 (C16)	・乳脂肪の増加・体脂肪の動員誘発
オレイン酸 (C18:1)	・乳量の増加・BCSの回復・他の脂肪酸の消化吸收のサポート
リノール酸 (C18:2)	・卵胞の発育・子宮回復を促進・排卵を誘発・肝臓でのエストロゲンの分解を抑制
リノレン酸 (C18:3)	・妊娠状態の維持（早期胚の死滅防止）・受精卵の成長
など	



～導入事例～

熊本管内の牧場において、5月より油脂製品を1日200g～300g給与。
結果として、

- 乳量：前年同月と比較し、1.5kg／日増加
- 乳脂率：0.25% UP
- 繁殖成績：夏場受胎率 9% UP



という効果が得られました。この改善は経営的にも大きな意味があります。

～おわりに～

暑熱ストレス対策の基本は「牛の体温コントロール」だと思います。

環境、設備面からのアプローチを考えると同時に、牛の体内エネルギー環境をどう守るかが夏場の乳量・乳質・繁殖を左右すると考えています。

餌のコントロールは複雑で、同じ製品を同じ量上げても同じ結果が出ることはありません。結果を構成する要素が牧場ごとに異なるからです。

今回は油脂製品でのアプローチについて触れましたが、アミノ酸、繊維の消化率、DCAD管理など夏場における飼料戦略は沢山あります。（※配合製品も開発中です！）酷暑だから…とあきらめる前に一報いただけると幸いです。聞き取り、課題の抽出から共にさせていただきます。共に夏を乗り「越」えましょう。

少しでも興味があるという方はお近くの全酪連担当およびマザーズ購買課へお問い合わせください。



令和7年度夏季酪農大学開講!!

主催：らくのうマザーズ、熊本県酪農青壮年部女性部協議会

去る9月3日（水）に県内酪農家の知識と生産意欲の向上を目的とした夏季酪農大学がらくのうマザーズ3階大会議室で開催されました。県内酪農家を含め計69名が参加されました。併せて九販連主催の令和6年度生乳品質共励会に於いて優秀な成績を収められた方々への表彰式が行われ、小池常務よりご出席頂いた3名の対象者へ賞状等が授与されました。

夏期農科大学においては、株式会社農テラスの山下弘幸氏に「これからの酪農経営を考える～担い手と人材確保をどうすべきか～」と題しましてご講演いただきました。

講演内容としては、経営戦略としての「投資と回収」の考え方、原価の計算、事業承継の考え方をご自身の経験や具体例を交えながら分かりやすくご説明いただきました。今回の講演を通して、県内酪農家の経営のヒントになればと思います。



山下氏



会場風景



品質共励会表彰